Ⅴ＜調査結果のまとめ＞

1　学力調査結果について

（1）　小学校においては、大山町全体の平均正答率は、国と比較して国語はやや高く、算数はやや低く、県と比較して国語は高く、算数は同等である。

国語では、学習指導要領の内容「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱いに関する事項」でやや高い正答率を示している。単元をつらぬく言語活動を大切にした授業づくり、図書館教育の成果が出ていると思われる。また、朝学習や放課後学習の取り組み、家庭学習の取り組み等、学校組織としての取り組みが児童の学力向上に果たした役割は大きいと思われる。

算数ではどの領域でも課題が見られる。めあて―まとめ―ふりかえりのあるゴールを明確にした授業づくり、授業のねらいに沿った適用題を用意することや児童の習熟度に応じた適用題を用意するなど、適用題の質と量を意識した取り組みが引き続き必要となる。また家庭学習の取り組みも合わせて定着へ向けた取り組みが必要となってくる。

（2）　中学校においては、国と比較して国語、数学は高く、英語はやや低く、県と比較して国語、数学、英語いずれも高い平均正答率になっている。

国語では、６つすべての学習指導要領の内容で、国より高いまたはやや高い正答率となっており、特に「情報の扱い方に関する事項」が高く、課題解決のために、話し合い活動を取り入れている結果、相手の話を捉えて質問したり、聞き取ったことをもとに自分の考えをまとめたりする力がついてきたものと考える。

数学は、学習指導要領の領域で「データの活用」が国より高い正答率となっており、授業でデータに基づいて考察する場面などを設け、データの傾向を読み取る力や理解する力が深まっていった結果と考える。

英語では、４つの学習指導要領の領域で「聞くこと」が国よりやや低く、県より高い正答率となっている。引き続き ALT やオンライン英会話を通じて、音に慣れさせていくだけではなく、様々な場面を想定した課題に当たらせることで、状況把握をする力をつけさせたい。

（3）　学校間の平均正答率の差については、小学校では、国語 23%、算数 21.6%、となり、中学校では、国語 4%、数学 18%、英語 6%の差となっている。

領域別にみると、小学校国語では、「読むこと」の領域で 21%、算数の「変化と関係」の領域で 24,8%の差となっている。また、中学校国語の「読むこと」の領域で 6.1%、数学の「関数」の領域で 22,6%、英語の「書くこと」で 15.3%の差が生じている。

各学校が結果をしっかりと分析し、学級経営や生徒指導を含め、日々の授業改善に取り組むとともに、放課後学習や家庭学習などとの関連を図り、学習内

容を定着するための反復徹底を図るサイクルの構築が必要である。

校区の小・中学校が９年間を見通した生徒像を共有し、今回の調査で見えてきた課題を共有し学力向上に取り組むことが重要である。

２　質問紙調査結果について

（１）　小学校においては、「読書は好きか」、「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思うか」、「日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思うか」などの項目の肯定的回答割合が国や県より高かった。大山町のブックスタートの取り組みや、小学校でのボランティアによる読み聞かせ、図書館教育との連携の成果が表れていると考える。また地域を大切にし、地域のことを外国の人にも伝えたいと思う児童が多く、「ふるさと大山」を愛する児童が育っていることが分かる。また一方で、「自分にはよいところがあると思う」、「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思うか」「困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人にいつでも相談できるか」などの項目は国や県より低かった。教師は児童のよいところをしっかり伝え、児童の自己肯定感を高める必要である。また困ったことや不安なことがあれば、相談できる教師と児童の関係づくりを心掛けていくことが大切である。

（２）　中学校においては、昨年低かった「自分にはよいところがあると思うか」「先生はあなたの良いところを認めてくれていると思うか」の肯定的回答割合は国や県より高く、自己有用感や大人への信頼感を高める指導と授業改善の成果と思われる。引き続き自己評価を図る場面や他者から称賛される機会を設けていくことが大切である。また「将来の夢や希望を持っている」は国や県よりかなり低く、特にこの項目は学校生活と深い関係をもっており、結果が学力の向上や家庭学習時間にも結び付いていると思われる。「家で、自分で計画を立てて勉強している」の肯定的な回答割合が国や県よりも低く、自主学習する力をつけ、家庭学習の習慣化をめざしていく取組が必要である。「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいると思う」「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」は高く、日常的に自分の意見をしっかり持ちながら、他の意見と比較し、自分の考えをまとめていく取り組みが定着していると思われる。

※ 結果の分析に当たって、国・県と比べて平均正答率等の差に応じて次のように表現している。

・差が1％未満の場合、「ほぼ同等」

・差が1％以上 5％未満の場合、「やや高い（低い）」「やや多い（少ない）」「やや大きい（小さい）」

・差が 5％以上 10％未満の場合、「高い（低い）」「多い（少ない）」「大きい（小さい）」

・差が 10％以上の場合、「かなり高い（低い）」「かなり多い（少ない）」「かなり大きい（小さい）」